

# 2019年 RI国際協議会出席報告

第2760地区2018-19年度  
ガバナーエレクト

伊藤 靖祐



1月13日から18日までサンディエゴで行われた国際協議会に出席しました。34名の日本の地区ガバナーエレクトを含む世界中の地区ガバナーエレクト約530名が一堂に会し研修を受けました。国際協議会は英語ではASSEMBLYで、CONFERENCEではありません。つまり受身の研修ではなく、RI会長テーマを受け理解し自分で地区に合わせた考えを組み立てていくものです。午前中は全体会議、午後は分科会と一週間びっしりのスケジュールの中、ホテルで缶詰めです。分科会ではITを駆使したゲームショーもありプレゼンテーションとケーススタディからのアプローチにRIの先進性を感じることもできました。

初日にマーク・D・マローニー会長エレクトから次年度RIテーマ「Rotary connects the world」「ロータリーは世界をつなぐ」が発表されそのストーリーが話されました。その後は次々にRI戦略計画やガバナーの責務等のテーマ研修があり、ゲーリー・CK・ホアン財団管理委員長エレクトからロータリー財団について、ジョン・ヒューコ事務総長からロータリーの「革新性と柔軟性」について熱いプレゼンテーションがありました。

マローニーRI会長エレクトもヒューコ事務総長もロータリーの持続可能性に危機感を持ち、「つながり」を広めロータリーを強化していこうと考えています。ロータリーがなければ出会う事ができなかった人々、支援を必要とする人々とつながり、世界中で人生を変えるような活動がロータリーでは可能です。クラブはロータリー活動の中心部ですが、今ではクラブのあり方をより創造的かつ柔軟性をもって決めることができるので、組織だった戦略的で革新的な方策が必要となってきています。それ故に、ロータリアンは戦略的な柔軟性を取り入れ、コネクトを強めていくことが最重要であると強調しています。

このマローニーRI会長のテーマにも則った7月から始まる年度から5年間のRI戦略計画が発表されました。戦略計画の土台となる4つの優先事項は以下の通りです。①よりおおきなインパクトをもたらす ②参加者の基盤を広げる ③参加者の積極的なかわりをうながす ④適応力を高める

私は特に④適応力を高めることに注目したいと考えています。ビジョンを達成し、変りゆく世界的な傾向に追いつくため、構造と文化を進化させていかなければなりません。そのために柔軟で効果的な組織運営とガバナンス構造が必要です。

RI会長のテーマとその理念、それに基づく戦略計画を第2760地区に皆様に周知いただき、それを実践するべく行動する決意をさせていただいた国際協議会でした。